

4市連携で島・都市交流 自然と都市の“いいとこどり”発信

移住者の呼び込みを目的に、神戸市・芦屋市・淡路市・洲本市の4市は合同プロモーション事業『島&都市デュアル暮らしツアー』を展開。「デュアル」とは「2つの」を意味する言葉で、自然豊かな淡路・洲本と都市である神戸・芦屋は海を挟み隣接することから、「地方と都会」両方のいいとこどりをした暮らしができると提案している。渋谷や新宿でもイベントを開催するなどして首都圏での発信も行っている。



神戸の秘境の里山で過ごす!大人と子どもの夏休み体験!
開催日:8/18(土)



漁師町の老舗魚屋さんが伝授!“さばける女”になるツアー
開催日:今秋開催予定

市民がツアープロデュース ここでしかできない暮らし体験を

この「デュアル暮らしツアー」は現地での体験ツアーが中心で、地元市民が「暮らしナビゲーター」として企画と案内役を担う。1年前に淡路島へ移住してデュアル暮らしを実践している女性ライターや、神戸に住

みながら淡路島で起業・運営支援を行っているNPO代表理事などナビゲーターの種類も様々だ。ツアーは自然栽培農家の協力のもとで収穫体験を実施するものや老舗の漁師に魚のさばき方を伝授してもらうもの、レトロモダンな芦屋のサロンで薬膳アドバイザーから和薬膳を学ぶものなど、受け入れる地域の人々と実際に交流しながらデュアルな暮らし体験ができる

ものばかり。

今後は子どもも参加可能な『心と体と五感をフル活用!淡路島の大自然で冒険遊び場体験』や『神戸のイメージを覆す“B面の神戸”でおなかいっぱい食べ歩き!』といったガイドブックに載らない場所を巡るツアーなどが予定されている。詳しい情報は同事業の公式ホームページ(<https://shimatoshi.jp>)にて。

学生のアイデアを実現する 社会との交流拠点を開設



湯川さんや学生、大学の学長、神戸市などが参加したオープニングセレモニー。

一ノ宮駅前の複合ビル、サンパル4階に、学生の「やってみたい」という自由な発想をかたちにする交流拠点『Co-STUDY KOBE(コスタディ神戸)』を6月18日にオープンした。主催する神戸市は、市の基本計画「神戸2020ビジョン」にある「若者に選ばれるまち」を実現すべく、大学集積都市としての特色を生かした取り組みを行っており、この事業はその一環。4月からは、プロジェクトメンバーとして集まった約60名の学生らにより、DIYによる拠点づくりや、ポータルサイトを活用した情報発信も始まっている。運営は、産休や育休後の女性の社会参加を支援する一般社団法人「リベラタ学舎」。神戸市の委託

を受け、学生のアイデアを実現化するための専門家や企業とのマッチング、実務的なサポートなどを行う。代表の湯川カナさんは、「ここは、社会で活躍する専門家や企業と関わりながら、アイデアを実現させるためのトライ&エラーを繰り返せる場所。神戸に愛着を持ち、生きがいを持って働ける大人の育成に繋がれば」と話す。

今後は学生企画による、市内の企業経営者のトークイベントなどを行う予定。学生メンバーは、ホームページなどで随時募集中。神戸市以外の大学等からも応募可能だ。

後継者不在の 中小企業と起業家をマッチング

神戸市産業振興財団は、後継者不在の中小企業と起業家等とのマッチング事業を開始した。同市では今年度より、事業継承に課題を抱えていると思われる中小企業への訪問支援を行っており、マッチング支援もこの一環。司法書士や弁護士など、事業継承のプロ5人が専門家チームを結成し、相談や橋渡しを担う。政令市初の取り組みで、7月2日より起業家の登録申込を開始した。受付時に希望業種や引継条件等をヒアリングし、後継者候補のデータベースに登録。双方の条件を見合わせながらマッチングを行っていく。同市はものづくりが盛んな都市であり、

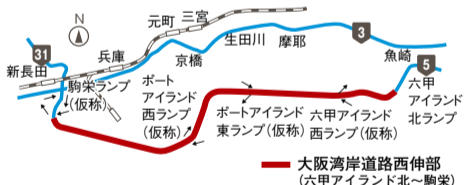
高度な技術を持った企業やサプライチェーンの重要な位置を担っている企業も多いが、事業継承が重要な課題となっている。担当者は、「中小企業と起業家双方に、第三者への事業継承という選択肢があることを知ってもらい、地域に根付いた価値ある会社がより長く続くよう、丁寧なマッチングを進めたい」と話す。



8月3日には、起業家に事業継承の理解を深めるため、起業家向けのセミナーを開催する。写真は講師の奥村聡さん。詳しくは、神戸市産業振興財団(078-360-3220)まで。

阪神高速湾岸線 六アイから西伸 年内着工

国土交通省は7月2日、「大阪湾岸道路(阪神高速湾岸線)西伸部」について年内に着工することを明らかにした。同西伸部は、兵庫県や神戸市などが早期整備を求めていた区間の一つで、2016年に六甲アイランド北(神戸市東灘区)～駒栄(同市長田区)間14.5kmの事業化が決定。現在は、地質調査工事や31号神戸山手線とつながるトンネル開削工事の発注手続きを進めて



いる。完成までには10年以上かかる見込みだが、共同事業者の阪神高速道路株式会社の担当者は、「3号神戸線の渋滞損失額は全国ワースト1位であり、供用への期待が高いルート。できる限り早い完成を目指して努力を続けていきたい」と話す。

豪雨による市外被災者へ 市営住宅の提供を開始

神戸市では、平成30年7月豪雨で被災した人への支援の一環として、市営住宅の提供を決めた。北区、垂水区、西区を中心に50戸程度を予定している。神戸市外の被災地の住民が対象で、家賃は免除(共益費・光熱費は入居者負担)とし、敷金・保証人も不要。入居期間は1年以内だが2年目に延長もできる。申し込みは代理人でも可



※写真はイメージです

能だが、入居者本人への鍵の受け渡しが必要だ。り災証明書の提出は後日でも可能。市の担当者は、「住宅を選ぶこともできますが、先着順なので、まずはお問い合わせを」。問い合わせ先 神戸市住宅管理課 078-322-5585(平日)8時45分～17時半

災害に備えよう ～今日からできる災害への備え～

協力:兵庫県警察

地震や津波、風水害など自然災害はいつ、どこで起こるか分からない。いざという時に、自分の命、家族の命を守るために日頃から「災害への備え」をしておくことが大切だ。自宅や職場で、災害への備えができていないか、下記の項目をチェックしてみよう。チェックできなかった項目は、今一度確認して備えておこう。

【共通事項】

- 一時避難場所・避難所の場所を確認している
- 避難経路を確認している
- 災害情報や避難情報を入手できるツールを持っている(ラジオ・スマートフォンなど)

- 非常時に持ち出すものを準備している(懐中電灯・常備薬・衣類等)
- 非常食や水を1週間分備えている
- 家族との連絡方法を決めている(災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板等)

【地震】

- 自宅や職場付近の津波などの影響を確認している
- 倒れる可能性のある家具は固定している
- 家具が倒れた時に「下敷きにならない」「出入口をふさがない」方向に配置している
- 収納物が飛び出さないように、留め具や滑り止めシートを設置している

【風水害】

- 川の増水や氾濫、土砂崩れなどの危険性がある場所を確認している
- 風で飛ばされそうなものは、飛ばないように固定または家の中に収納している
- 側溝や排水溝は掃除して、水はけをよくしている